

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2372101390		
法人名	社会福祉法人 瑞穂会		
事業所名	グループホームかみさの家 萌ユニット		
所在地	愛知県岡崎市上佐々木町字大官43番地		
自己評価作成日	令和3年9月11日	評価結果市町村受理日	令和3年11月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=2372101390-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=2372101390-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和3年9月30日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

新型コロナウイルスの感染拡大の為、思うような事業所の活動が行えていない状況です。以前は、敷地内の畑や花壇を利用し、四季折々の野菜や花々を栽培し、交利用者様と一緒に収穫を楽しめるようにしています。散歩や外気浴など、利用者様が気兼ねなく室外へ行けるよう開放的な環境の維持に努めています。基本理念を忘れず、個々の生活スタイルやペースを尊重し、個々に合った支援ができるように努めています。運営推進委員会や家族会を通して、より良い施設づくりの為に意見やアドバイスを頂く場を設けています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

管理者・職員は、コロナ下にあっても、ホームの敷地内にて散歩や季節の花見など、利用者が外気に触れる機会を設けている。理念に沿い、「利用者がやりたい事をできる自由な暮らし」の実現に向けて支援を行っている。利用者一人ひとりが個性を活かし、お手伝いや趣味に興じて元気に生活している。家族とは、面会・電話・写真付きの便りで利用者の生活情報を共有し、ホームへの理解と協力、そして信頼を得ている。職員の定着率が良いのも、このホームの特徴である。職員同士が協力して忌憚なく意見交換を行い、風通しの良い職場環境の構築に努めている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の理念を踏まえたうえで、職員一人ひとり、毎年年間目標を設定し、実践を心掛ける業務を行っている。	法人理念に基づき、ホームの行動指針を定めている。ユニット目標と個人目標を毎年設定し、年2回支援内容の振り返りを行っている。理念に沿い、「利用者がやりたい事をできる自由な暮らし」の実現に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染拡大の為、運営推進会議、ふれあいサロン、近隣の保育園との交流ができておらず、現状地域との繋がりが持っていない。	コロナ禍以前は地域ボランティアとの外出・保育園児との交流(敷地内の畑を使用した芋掘り体験)など、積極的に地域交流を進めてきた。現在は、地域との新しい関わり方を模索している。	コロナ下においても地域との付き合いが継続できるように、今後の取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は、運営推進会議で施設の現状を報告し、認知症の勉強会などを通じて、地域の方へ認知症に対する理解への啓蒙活動を行っていた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1度行っている。新型コロナウイルス感染予防のため、ほぼ書面での会議となっている。そのため、地域の方からの助言を頂くことができていない。	今年度の運営推進会議は、コロナ禍の状況に合わせ、1回対面開催・5回書面開催となっている。関係者にはホームの詳細情報を記載した書面を送付し、意見の確認を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは、特段の理由が無ければ連絡を取り合っていない。介護相談員の訪問も、新型コロナウイルス対策の為、現在中止している。	市の担当者とは、運営・事務処理の案件でやり取りをしている。市が主催する研修は、Webへの切り替わりに合わせて、参加を検討している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議にて、身体拘束についての勉強会を開催し、職員の知識の向上に努めている。施設の方針として、玄関の施錠はしていないが、居室の窓からの離脱を防ぐ為、家族の同意を得て10cmロックをしている利用者様も見える。	年4回身体拘束適正化委員会を開催し、現状の利用者支援への振り返りや課題を討議している。その内容は全職員に周知を促し、職員会議でも事例検討を行っている。年2回職員研修を開催し、職員一人ひとりの支援内容を振り返る機会としている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議にて、虐待についての勉強会を開催し、職員の知識の向上に努めている。内出血や擦り傷について、何故できたのかを考える場を持ち、再発防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を設けていない為、職員の理解度は低い。今後、職員会議等で、知識を得る機会を設けていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所する際に契約に関する説明をし、十分に納得して頂けるよう努めている。また、定期的にご家族様とお話し、不安や疑問点を少しでも解消できるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族様の意見や要望は、その都度職員間で話し合いをし、共有している。また、意見や要望がないか、定期的にご家族様とお話をしている。	コロナ下においても、家族来訪時は窓越し・玄関先(要距離調整)での面会を対応可能としている。写真付きの便りや電話で利用者の様子を報告し、家族の意見を聞き取っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を開催し、業務についての課題点、問題点を話し合う機会を作っている。また、職員とのコミュニケーションを通じ、希望などを聞く機会を作っている。	日常的に、管理者・ユニットリーダーが職員の話聞く機会を設けている。職員間で意見の相違が生じた場合は、都度話し合っ解決している。職員同士が話しやすく、風通しの良い職場環境の構築に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として年に6日のリフレッシュ休暇や、年1度の5日までの長期休暇を取れる環境を整えている。また、有給休暇をなるべく消化出来るような勤務体制を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナウイルスの影響で外部研修への参加が困難な状況なので、内部研修に焦点を当てて研修計画をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ認知症対応型共同生活介護事業者の代表者が集まる、市内の会議に2ヶ月に1度出席し、情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の様々な言動について、職員間で話し合い、どのようなことを求められているか考えている。また、これまでの生活歴を知り、利用者様との関係づくりに役立てている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からの意見や要望は、定期的に連絡をして聞き取りをし、良好な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテーク時に利用者様とご家族様の必要としている支援を見極め、施設サービス計画書に反映させている。計画書は、利用者様の状態に合わせて、その都度変更、追加をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様一人ひとりが楽しく穏やかに過ごして頂けるよう心掛け、職員と一緒にできる環境作りをしている。また、同じ目線で対応し、安心して生活して頂けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とは定期的に連絡を取り合い、不安や困りごとの解消に努めている。また、1ヶ月に1度手紙を送付し、利用者様の現状をお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの影響により、交流する機会は減ってしまったが、可能な限りご家族様や知人との面会、電話、手紙を通し、これまでの関係が継続できるよう支援している。	直接の面会ができなくとも、知人との手紙のやり取り・遠方の親戚との電話など、関係が途切れないように支援している。ピアノ・将棋などの趣味や、裁縫などの習慣を継続している利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の相性や関わり方を考慮し、より良い環境作りをしている。また、利用者様が皆同じ立場であるということを理解して頂けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した後は、関係が途絶えてしまっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、表情や言動、訴え等、小さなことでも見落とさないよう記録に残し、また、傾聴するようにしている。	利用者の会話や日常的な関わりの中から、思いや意向の把握に努めている。汲み取った思いは、介護記録や申し送りを通じて職員間で共有している。家族の協力も得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴を、書面や利用者様本人様から聞き取り、どのような暮らしをしてきたかを知る努力をしている。それを普段の会話に取り入れ、安心感を持って頂けるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の会話や表情から、利用者様の現状を把握し、変化を察知できるよう努めている。職員間でも情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の現状に即した施設サービス計画書を作成する為、利用者様、ご家族様の意見を取り入れ、職員間でカンファレンスを実施している。	利用者・家族から事前に意見を確認し、介護計画に反映させている。毎月担当職員がモニタリングを行い、変更点がある場合は分かりやすく赤字で表記している。	利用者の思いや意向を反映した介護計画を基に、利用者・職員が共に達成感を感じられるような、具体性のある目標の設定に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はケース記録に記入することで現状の把握をし、申し送りを通して職員間で情報共有をしている。それを基に、施設サービス計画書の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様が高齢化していることにより、徐々にADLが低下してきている為、職員の知識や介護技術を向上していかなければならないが、既存のサービスに捉われがちである。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年では、ボランティアの協力を得て、月1回程度外出をしているが、現在は新型コロナウイルスの影響により実施できていない。その為、施設内で行える行事を企画したり、施設外の散歩をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の看護師を中心として、ご家族様と連携を取りながら、かかりつけ医と関わりを持っている。定期的な受診、年1回の特定健診を通して、適切な医療を提供している。	利用者・家族が希望したかかりつけ医やホーム協力医への定期受診は、原則家族対応で行われている。受診の前後は情報共有と記録を行っている。各ユニットに看護職員を配置し、健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の暮らしの中で気付いた利用者様の変化は、施設の看護師や、併設の特養の看護師に伝え、適切な看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の入院があった際は、管理者と施設の看護師が病院関係者と連携し、こまめな面会や電話でのやり取りを通じて、情報共有をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設入所時に、重度化した場合を想定した説明を行い、同意書に記入して頂いている。状態が悪くなった場合は、その都度説明、同意をして頂いている。	重度化や終末期の支援について、入居時にホームの対応指針を説明して理解を得ている。ホームは看取り対応はしていない。利用者に状態変化があった際には、早期段階で家族と今後の住居移行について相談し、円滑な対応となるように努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルは作成されているが、応急手当や初期対応の訓練はできておらず、職員の知識、技術不足である。今後、勉強会等で利用者様の急変時に備えておきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っているが、実践力があるとは言えず、自然災害が増えている昨今、準備しておかなければならない喫緊の課題である。	年2～3回火災の避難訓練を実施し、うち1回は夜間を想定している。今後水害訓練も検討している。非常食は、3日分を備蓄している。	他の地域で災害時に発生した課題とすり合わせ、停電時の灯り・備蓄内容の再検討・AED訓練など、見直しをかけることが望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の話をしっかりと聞く意識を持ち、一人ひとりに合わせた声かけをすることにより、安心して施設生活を送って頂けるよう援助している。	家族と打ち合わせ、利用者が慣れ親しんだ呼称を用い、尊厳に気を配り、親しみを込めて接している。利用者の自尊心に配慮し、居室や人気のない場所で話を聞くこともある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日中活動や軽作業を行う際、何をしたいか、どうしたいのかを尋ね、できる限り利用者様の思いを尊重するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の活動に追われがちであるが、利用者様に合わせた介護を心掛け、利用者様のペースに合わせた援助をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様自身で衣類を選んで頂いたり、起床時に整髪をして頂く等、利用者様に整容を意識して頂けるよう援助している。また、月1回理容奉仕があり、希望を聞き、カットやカラーをして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	適宜利用者様に聞き取りを行い、何が食べたいかを尋ねている。食事の準備は、危険が無いように配慮し、盛り付けや配膳など、簡単な作業をお願いすることがある。	献立は、利用者の希望を聞き取って決定している。誕生日や季節毎の特別食の提供もある。職員管理の下であれば飲酒も可能である。食事の準備や片付けなどには、利用者が積極的に参加し活躍している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎日ケース記録に記入し、月に1度体重測定を行い、体調管理をしている。食事形態も、利用者様一人ひとりに合わせたり、スプーンやフォークを使用する等、食べやすい工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後は行えていないが、起床時、就寝時に口腔ケアを実施し、口腔内の清潔保持をしている。痛み等、異常がある場合は、歯科受診をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握する為、ケース記録に記入をし、排泄時間やパットの大きさ等、職員間で話し合いをし、適時変更している。	利用者の自立の妨げとならないように配慮し、状態に合わせて声かけ・見守り・介助の支援を行っている。2人介助での対応や、夜間の声かけも行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量、水分量、運動量、内服薬の副作用等、様々な要因を考え、施設の看護師を中心として排便コントロールをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2、3日に1度入浴をして頂いている。声かけをし無理強いはないが、入浴拒否が続いている場合は、その旨を説明し、入浴して頂けるよう援助している。	1日の入浴人数を定めず、利用者の体調や状況に合わせて支援し、毎日の入浴も可能である。希望により同性介助にも対応している。檜の浴槽はくつろぎの空間となっており、職員と本音で語り合う場となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中傾眠が強い時や体調不良の時は、適宜居室にて休息する時間を設けている。夜間帯も、室温や照明等、良眠できるよう環境作りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の内服薬の内容、作用と副作用について、職員全員が理解していない為、勉強会等を通して、理解していく必要がある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	興味のある活動を行って頂けるよう、利用者様一人ひとりの嗜好を把握し、体操、合唱、紙芝居、散歩等のレクを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	例年では、月に1回程度外出レクを実施しているが、新型コロナウイルスの影響で行えていない。その為、苑外を散歩したり、ゴミ捨てを一緒に行う等、施設の外の空気に触れることができるよう援助している。	特養に併設されたホームで、広い敷地内の散歩や花壇の水やりは日課となっている。家族との医療機関への受診以外の外出は現状自粛しているものの、花見など人が密にならないところへの外出は、徐々に再開するよう検討している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金を所持している利用者様はおらず、事務所で預かりをしている。外出レクの際、お金を使用することはあるが、利用者様一人で使うことはなく、必ず職員が付き添いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時にはご家族様に電話をしたり、手紙を書くための援助をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット内の壁には、季節感を感じて頂けるような飾り付けをしている。また、エアコン、床暖房を使用し、快適に生活して頂けるよう援助している。	窓から心地よい陽ざしが入る共有空間は、自然と利用者同士が集い、憩いの場となっている。季節毎に、利用者・職員が共同制作した作品を掲示している。ピアノが設置されたユニットでは、利用者が自由に演奏を楽しめるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様を近くにする等の配慮をしているが、トラブルに発展することがある為、適宜席替えをしている。食事場所は決められているが、それ以外の時間帯は、フロアのソファに座ったり、自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物で安心して過ごして頂けるよう、ご家族様の協力を得て、写真や家具を配置している。	コロナ禍のため、利用者居室への訪問は中止とした。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレが分からなくなってしまう利用者様の為、扉に名前やトイレの張り紙をし、迷うことがないよう援助している。また、バリアフリーとなっている為、安全に生活して頂くことができている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372101390		
法人名	社会福祉法人 瑞穂会		
事業所名	グループホームかみさの家 ぼかぼかユニット		
所在地	愛知県岡崎市上佐々木町字大官43番地		
自己評価作成日	令和3年9月11日	評価結果市町村受理日	令和3年11月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2372101390-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2372101390-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和3年9月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルスの影響で、行事や活動のほとんどが中止となっています。感染症拡大以前は、敷地内の畑や花壇を利用し、四季折々の野菜や花々を栽培し、利用者様と一緒に収穫を楽しめるようにしています。年2回は、近隣の保育園児を招待して、芋掘りと交流会を開催していました。また、散歩や外気浴など、利用者様が気兼ねなく室外へ行けるよう開放的な環境の維持に努めています。基本理念を忘れず、個々の生活スタイルやペースを尊重し、個々に合った支援ができるように努めています。運営推進委員会や家族会を通して、より良い施設づくりの為の意見やアドバイスを頂く場を設けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様が今までの暮らしが継続できるように、また、安全で穏やかに生活が送られる様に、常に管理者と確認しながら、居室や共有部分の環境作りを行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、町内のふれあいサロン、近隣の保育園との交流、外出時の地域ボランティアなど、地域との繋がりがほとんど無い。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議での現状報告、または会議内で認知症をはじめ、声のかけ方、支援方法などの勉強会を開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回会議が書面での報告のみとなった。会合の場が設けられず、アドバイスや指摘をいただけていない。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	新型コロナウイルス感染症の影響により、市職員の訪問が中止になっており、あまりコミュニケーションが取れていない。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に職員会議を開催し、法人内の委員会の情報提供や、内部勉強会を実施して、職員の意識やスキル向上に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回以上の会議を開催し、高齢者虐待や身体拘束について勉強する機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、成年後見制度を利用されていた方がいたが、職員の知識、認識としては薄い面がある。今後は、勉強会で知識を得る機会を設けたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に契約に関する説明は十分に行い、納得を得られている。改定時も個別で対応し、意見や要望を受け付けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に利用者様やご家族様の意見や要望を受け付けており、話があった場合は、その都度職員間に情報をおとしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員会議を開催し、業務改善や支援の統一化等の意見交換を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の5連休と6回のリフレッシュ休暇を利用して、心身の管理に努めている。また、有給休暇を8割消化を目標とし、勤務の調整を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加が困難な状況が続き、内部研修を中心に、その時点でのケアの改善やスキル向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の認知症対応型共同生活介護事業者の代表者が集まる会議に出席し、意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	何気ないつぶやきや表情を見逃さず、不安や不満を拾い出しに務め、職員で情報を共有して関係作りに役立っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテーク時にご家族様から要望を聞き出すようにしている。また、入所後も適時現状を報告し、ご家族様のご意見を拝聴している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所1ヶ月は「24時間シート」に記録をとり、その方に必要な支援を見極めるよう評価をしている。状況に合わせ、その都度サービス計画書を見直し、現状報告と共にご家族様への理解を求めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯、料理の下ごしらえや盛り付け等、日常生活でご本人様が出来ることを行って頂けるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、各担当者から手紙で近況報告を行っている。現在は対面での面会が禁止となっているが、電話や窓越しの面会などを通じて、安心して頂ける環境を整えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様や知人の面会を受け入れ関係の維持に努めていたが、現在は電話か窓越しでの面会で対応している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の相性や認知度、聴き取りやすい耳の方などに考慮しつつ、利用者様が一つの輪になる様に席を配置している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後でも相談があれば、いつでも対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションから、常に利用者様の表情や言動を観察し、記録をとって状態の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者との会話やご家族様からの情報、カルテ等の資料を参考に、生活歴や生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り、介護記録の確認、日々のコミュニケーションから職員間の話し合いで、情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様やご家族様の意見を取り入れ、職員間でカンファレンスを実施し、サービス計画書の作成に役立てている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践結果を介護記録に記入し、職員間で共有、計画書の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の急激な認知症状の進行や、身体機能低下を予測し、個々に合わせた事例検討などを行い、意識改善やスキル向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染症の影響により、現在が地域資源の活用をできていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看護職員を中心として、ご家族様と連携しながら定期受診など、適切な医療が継続されている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	処置や受診が必要な時は、看護職員もしくは、併設の特養看護職員と連携し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が窓口となり対応しており、その内容が他職員に共有される様になっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態変化に合わせ、ご家族様と話し合いカンファレンスを実施し、利用者様の環境整備や支援方法の検討を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応マニュアルに沿って、対応する様に周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に、地震や火事、発生時間帯を想定した訓練を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重して、プライドを傷つけないように接する事を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で話題や声掛けを工夫し、ご本人様の希望を表現できる様に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の生活リズムを大切に、ご本人様の希望に沿って援助するよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には整容を実施し、入浴時には着替えの準備を自身で行い、必ず着替えをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー決め、料理の下ごしらえ、盛り付け、食器拭きなど、その方が出来ることを手伝って頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりにあつた量や食事形態で提供をし、必要摂取量と水分摂取量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、就寝時に歯磨きの声かけや見守り、及び実施介入等を行ない口腔内の清潔保持に努めている。痛みや異常があれば歯科受診を実施している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録をとり、排泄パターンを把握し、個々に応じた誘導及び介入を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の確保、適度な運動を行っている。自然排便をめざしているが、必要に応じて頓服として下剤を使用する時もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午後の限られた時間帯での実施になるが、その中で個々の希望や体調に合わせている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様の状況に応じ、いつでも休息できるようにしており、その際に居室内の快適な室温を管理している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様個別にお薬ケースを作り、薬剤と処方箋のコピーを保管、管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩、壁紙作り、パズル、塗り絵など、一人ひとりの嗜好を把握し、個々が興味のある活動を行えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響で、戸外へ出る機会が無くなってしまったが、気候が良い時に、敷地内を散歩している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所にて、小口現金として預かっており、日用品や消耗品など必要に応じて購入に使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、いつでも電話をしたり手紙が書けるようにしている。また、ご家族様からは、電話が繋がりやすい時間帯を伺っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、季節に合わせた貼り絵や壁紙を皆様に作成し、共有の場所に掲示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにソファを設置し、自由に座れるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、今まで自宅で使用していたなじみの家具や日用品を持参して頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっており、廊下には手すりが設置してある。居室やトイレ、風呂場には分かりやすいように表札や張り紙がしてある。自室の目印として、表札付近に小物を飾っている方もいる。		